

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	からしだね(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2026年2月2日		~ 2026年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2026年2月2日		~ 2026年2月8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	障がいのない子どもとの交流	敷地内にある法人が運営するマナ愛児園に入園して園児と一緒に保育を受けられるようにしている。	同じ法人が運営する土浦めぐみ教会の教会学校に出席して、さらに交流の場を広げる。
2	職員間の連携	集団生活(マナ愛児園)の中で、障がいのあることもがどのような合理的配慮を必要としているのか記録し、MTや日々の支援の中で、職員間で都度話し合い支援に活かしている。	これまで作成・蓄積した利用者の個別記録ノートをさらに活用し、支援の質の向上につなげる。加えて、ICTの導入を検討する。支援記録等の整理及び振り返りを容易にすることで、職員の負担を軽減させ、業務の効率化を目指す。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団保育中心の保育の中に個別支援を組み込むことが難しい。	従来の保育からインクルーシブ保育への転換が難しい。	保育にあたる担任と支援にあたる職員が、集団保育と個別支援をどのようにしたら両立出来るかのケースカンファレンスを継続して行う。
2	他事業所との連携	相談支援事業所が担当者会議を開催してくれない。	他事業所と連携した支援の必要性を相談支援事業所に自覚してもらう必要がある。
3	異文化理解	外国にルーツを持つご家庭への異文化理解	日本とは異なる文化的背景や生活習慣があることを理解し、利用児、保護者と事業所が相互にコミュニケーションを図ることで、利用児、保護者が信頼して利用できるよう努める。